

⑫令和2年度7月豪雨災害復旧対応(九州自動車道八代～人吉) ～緊急開口部等を活用した災害復旧・地域支援対応～

受賞機関

西日本高速道路株式会社 九州支社
西日本高速道路株式会社 九州支社 熊本高速道路事務所

キーワード 緊急開口部の開放、令和2年7月豪雨、地域支援

全建賞審査委員会の評価ポイント

令和2年7月豪雨により熊本県南部で一般道が被災し孤立地域が発生し、その解消のために高速道路の緊急開口部等を活用した災害復旧・地域支援。孤立地域の解消のため通常は使用しない緊急開口部を活用し、地域ニーズに柔軟に対応した災害復旧や生活支援に寄与した点が評価された。

1. はじめに

令和2年7月、九州地方に停滞した活発な梅雨前線の影響で、温かく湿った空気が継続して流れ込む線状降水帯が多数発生し、熊本県南部は記録的な大雨となった。この影響で熊本県人吉市を流れる球磨川が氾濫、国道219号等地域間を結ぶアクセス道路が被災し、八代市や人吉市などの高速道路周辺自治体が孤立した。

2. 事業の概要

被災した国道219号の代替路として、九州自動車道八代IC～人吉IC間について無料措置を開始した。しかし、被災地区の住民の方々等がアクセス道路の被災により高速道路を代替道路として利用できないことから、自治体からの要請に基づき、被災地域の災害復旧支援を目的として、山江SA(上下)、鮎俣BS(上下)及び坂本PA(上)の緊急開口部を開放した。また、当初、坂本PA(下)は車両用の緊急開口部が設置されていなかったが、新たに緊急開口部を設置し運用した。



国道219号と緊急開口部設置箇所

3. 事業の成果

八代市坂本地区は周辺道路が被災し、孤立状態となっていたため、同地区に隣接する坂本PAの開口部は、関係自治体等と調整を行い、緊急車両等に加え、地元住民の車両および生活インフラなどの災害支援車両も利用可能とした。

その結果、坂本PA開口部の通行台数は、一日あたり最大で1,800台を超えた。坂本地区の居住者が1,644世帯、3,265人(令和2年7月)であることを踏まえると、多くの方に利用いただいたことが確認できた。



坂本PA(下)緊急開口部設置状況



お礼の手紙

4. おわりに

坂本PAの緊急開口部は、令和3年5月末時点においても継続的に使用されており、被災された住民の方と地域の支援に重要な役割を果たしている。

近年大規模な自然災害が多発しており、高速道路も地域と連携した臨機な対応が求められると想定されるため、本事例がその一つとして今後の参考となれば幸いである。

賛助会員 (株)熊谷組、三井住友建設(株)、東亜道路工業(株)